

## 株主メモ

**事業年度** 4月1日から翌年3月31日まで

**定時株主総会** 6月

**株主確定基準日** (1) 定時株主総会 3月31日  
(2) 期末配当金 3月31日  
(3) 中間配当金 9月30日  
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

**公告の方法** 電子公告の方法により行います。  
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。  
◎公告掲載URL  
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)

**株主名簿管理人** 三菱UFJ信託銀行株式会社

**同事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
(〒100-8212)  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

**同取次所** 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

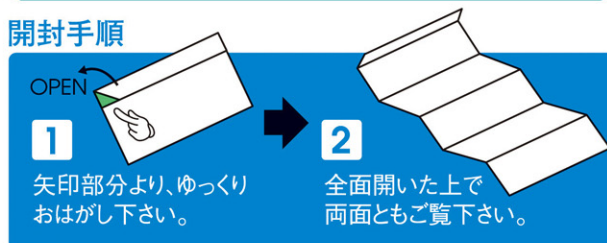
**郵便物送付先及び  
電話お問合せ先** 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
(〒137-8081)  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

**フリーダイヤル 0120-232-711**

住所変更、配当金振込指定・変更、  
単元未満株式買取請求に必要な各用紙のご請求は

株主名簿管理人の  
フリーダイヤル **0120-244-479**  
※自動音声で24時間承っております。

### 開封手順



### 株式会社三菱ケミカルホールディングス

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)



株主の皆様へ

### 第3期 第3四半期のご報告

(平成19年4月1日～平成19年12月31日)

株式会社三菱ケミカルホールディングス

# 第3四半期業績の概況（連結）

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期（平成20年3月期）第3四半期の当社連結業績等をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年12月21日、当社子会社である三菱化学の鹿島事業所において、協力会社従業員4名の方がお亡くなりになる重大な火災事故が発生し、株主の皆様には多大なるご心配をおかけしておりますことを、まず深くお詫び申し上げます。同社は、現在、事故原因の究明及び再発防止に全力を挙げて取り組んでおりますが、当社グループは、今回の火災事故の重大性に鑑み、グループを挙げて安全管理の再徹底に取り組み、社会的信頼の回復に努めていく所存であります。

さて、当第3四半期まで（平成19年4月1日～平成19年12月31日）における日本経済は、原油価格の高騰・高止まりや、サブプライム住宅ローン問題を背景とする金融資本市場の変動等の懸念材料がある中で、アジア向け輸出の増加や緩やかな設備投資の増加等により、一部に弱さがみられるものの回復基調で推移しました。

当社グループの事業環境につきましては、原油・ナフサ価格が高値圏で推移する状況にあったものの、国内外における堅調な需要に支えられ概ね良好でした。

このような状況下、原燃料価格の高騰に伴う石油化学製品を中心とした製品価格の是正や三菱ウェルファーマの田辺製薬との合併による田辺三菱製薬の発足等により、当社グループの当第3四半期までの売上高は2兆1,617億円、営業利益は1,144億円、経常利益は1,207億円となり、当期純利益は1,750億円となりました。

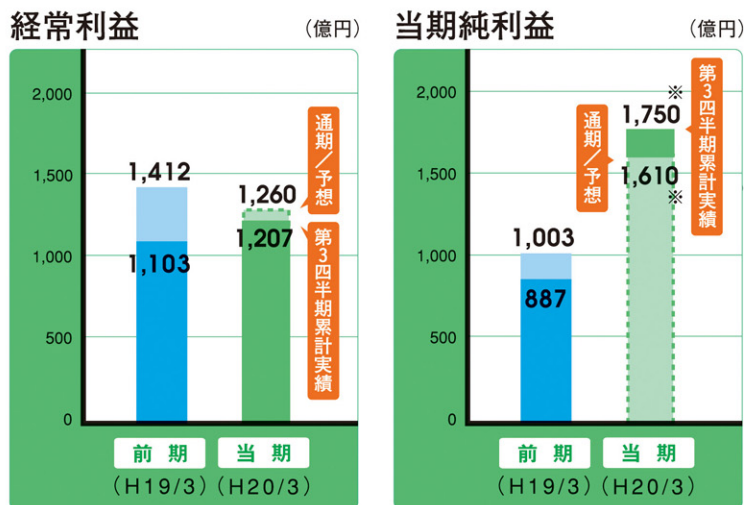
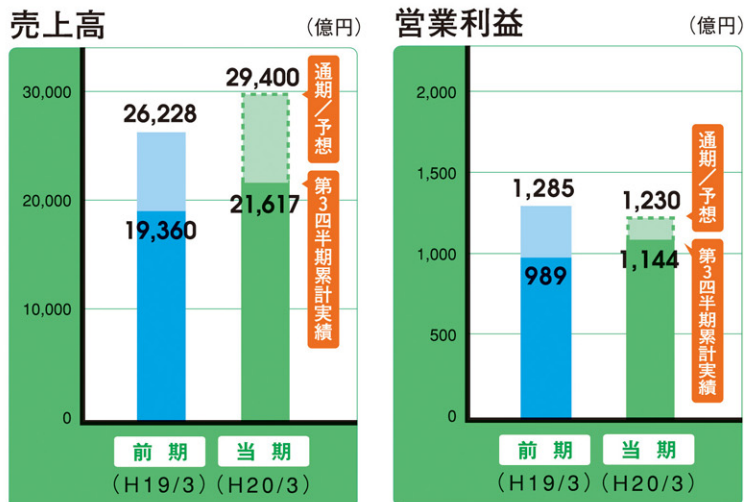
しかしながら、当期通期の業績につきましては、三菱化学鹿島事業所での火災事故に加え、原燃料価格の高騰や一部製品の海外市況低迷の影響により、当初の予想を下回る見込みであります。

また、当社子会社である田辺三菱製薬に係るC型肝炎訴訟につきましても、株主の皆様にご心配をおかけしておりますが、本年1月にC型肝炎問題に係る特別措置法が施行され、現在、原告との間で和解協議を進めているところであります。同社は、この問題に真摯かつ誠実に対応を行っていくこととしており、当社といたしましても、引き続き同社に対し必要な助言等を行ってまいります。

当社グループは、こうした諸課題の解決に取り組むとともに、グループを挙げて業績の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

取締役社長 小林喜光



※特別利益として、医薬事業再編に伴う持分変動利益1,175億円が含まれております。

## 通期業績予想の修正について

三菱化学鹿島事業所において発生した火災事故に加え、原燃料価格の高騰や一部製品の海外市況の低迷による影響を踏まえ、本年1月31日の当第3四半期連結業績の発表に併せて、当期通期の連結業績予想を上記の通り下方修正いたしました。

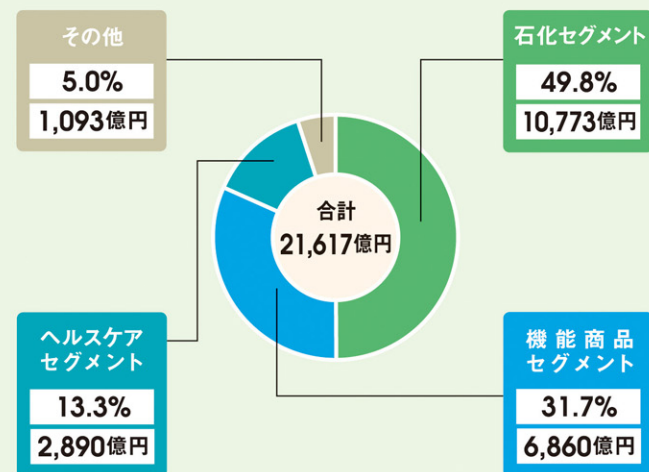
## 配当の状況

	1株当たり配当金(円)		
	中間期末	期末	年間
平成19年3月期	7	7	14
平成20年3月期**	8	(8)	(16)

※ ( )内の数値は、平成19年11月2日の中間決算発表時点で公表した予想数値であります。



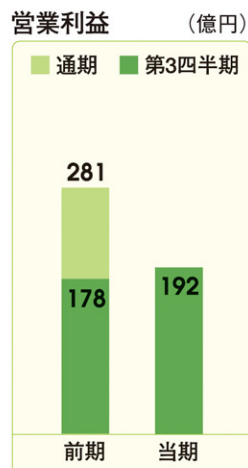
## セグメント別売上高の構成比



## 石化セグメント

石油化学製品の基礎原料であるエチレンの生産量は、三菱化学鹿島事業所の第2エチレンプラント火災事故の影響もあり、前年同期比1%減の97万6トンとなりました。基礎石化製品、化成品、合成繊維原料、合成樹脂及び機能性ポリマーは、引き続き国内外の需要が好調に推移したことに加え、原燃料価格高騰に対応した製品価格の是正や海外市況の上昇、中国におけるテレフタル酸の生産開始等により、売上は大幅に増加しました。

以上の結果、石化セグメントの売上高は1兆773億円となり、営業利益は、テレフタル酸の海外市況が弱含みで推移したものの、他の製品の市況が全般的に上昇したこと等により、192億円となりました。



## 鹿島事業所第2エチレンプラントにおける火災事故について (三菱化学)

昨年12月21日、三菱化学鹿島事業所において、石油化学製品の基礎原料であるエチレン等を製造している第2エチレンプラントの分解炉の保守作業後の再稼働準備中に、協力会社従業員4名の方がお亡くなりになる重大な火災事故が発生いたしました。

三菱化学は、現在、関係官庁のご指導を仰ぎながら、事故原因の究明及び再発防止に全力を挙げて取り組んでいるところであります。なお、今回の火災事故に係る情報につきましては、三菱化学のホームページ (<http://www.m-kagaku.co.jp>) に掲載しております。

## 機能商品セグメント

### ●機能化学

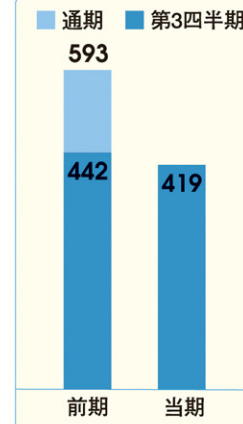
光ディスクは、DVDの需要が引き続き好調であり、販売数量が増加したものの、販売価格が低下したため、売上は前年同期並みとなりました。OPCドラム、トナー等のプリンタ・コピー機関連材料は、販売数量が順調に推移したものの、販売価格が低下傾向にあり、売上は前年同期並みとなりました。食品機能材は、引き続き順調に推移しました。コークスは、国内の鉄鋼需要が堅調に推移したものの、原料炭価格の低下に連動して、売上は減少しました。

### ●機能材料

各種フィルム、複合フィルム及びシート製品は、液晶ディスプレイ用保護フィルム等を中心に引き続き好調に推移し、樹脂射出成型品等の情報電子関連向け製品及び炭素繊維、アルミナ繊維等の産業資材は、引き続き好調な需要等に支えられ、売上を伸ばしました。

以上の結果、機能商品セグメントの売上高は6,860億円となりましたが、営業利益は、機能材料事業の一部製品における原燃料価格高騰に対応した製品価格の是正の遅れ等により、419億円となりました。

### 営業利益 (億円)

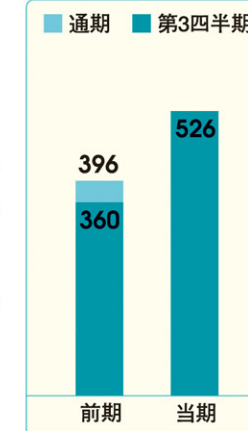


## ヘルスケアセグメント

医薬品は、三菱ウェルファーマの田辺製薬との合併(昨年10月)による規模の拡大、及び抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体製剤「レミケード」、抗血小板剤「アンブラグ」、アレルギー性疾患治療剤「タリオン」、肝・胆・消化機能改善剤「ウルソ」等の販売数量が増加したことにより、売上は増加しました。診断検査事業及び創薬支援事業は、順調に推移しました。

以上の結果、ヘルスケアセグメントの売上高は2,890億円、営業利益は526億円となりました。

### 営業利益 (億円)



## C型肝炎訴訟について (田辺三菱製薬)

田辺三菱製薬及び同社の全額出資子会社であるベネシスは、田辺三菱製薬の前身企業の一つであるミドリ十字が製造・販売したフィブリノゲン製剤又は第Ⅸ因子製剤の使用によりC型肝炎ウイルスに感染し、損害を受けたとする人々から国等とともに、大阪、福岡、東京、名古屋及び仙台において、損害賠償請求訴訟の提起を受けております。

これらの一連の訴訟につきましては、昨年11月7日、大阪高等裁判所から和解勧告が出され、原告、国及び田辺三菱製薬等の間で和解協議が開始されました。一方で、議員立法により、C型肝炎ウイルス感染者に給付金を支給する特別措置法が成立し、本年1月16日から施行されましたが、これを受けて、原告団と国との間で訴訟の解決に関する基本合意書が本年1月15日に締結され、本年2月4日には、大阪及び福岡において、一部の原告と国との間で先行して和解が成立いたしました。田辺三菱製薬及びベネシスといたしましても、同訴訟の全面的な解決に向けて、今後も真摯かつ誠実に対応を行うこととしております。



# トピックス

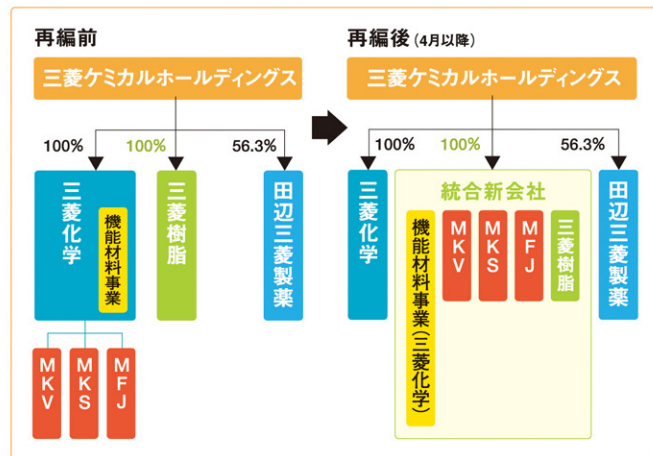
## 機能材料分野の再編・統合について

当社並びに当社グループの三菱化学、三菱樹脂、三菱化学ポリエステルフィルム（MFJ）、三菱化学産資（MKS）及び三菱化学エムケーバイ（MKV）は、グループの機能材料分野の再編・統合につきまして、昨年2月8日付で締結した基本合意書に基づき、その詳細を本年1月21日に決定いたしました。

本年4月1日をもって、三菱化学が保有するMFJ、MKS及びMKVの株式のすべてを当社に移管し、さらに同社の機能材料事業を三菱樹脂に移管したのち、同日をもって、三菱樹脂並びにMFJ、MKS及びMKVの4社が合併することにより、統合新会社が発足することとなります。



### 当社グループの組織形態



### 統合新会社の概要

会社名	三菱樹脂株式会社
資本金	215億円
本店所在地	東京都中央区
売上高	3,860億円(平成19年3月期連結実績合算)
営業利益	230億円(平成19年3月期連結実績合算)

機能材料分野においては、今後ますます多様化、高度化、複合化していくお客様のニーズに的確にお応えする製品やサービスを提供することが求められていますが、今回の再編・統合は、こうしたお客様のニーズに、よりスピーディーかつ的確にお応えするため、各社がこれまで独自に培ってきた競争力のある製品・技術を新会社に統合することとしたものであります。

### 期待される統合効果

- |    |   |
|----|---|
| 事業 | <ul style="list-style-type: none"><li>国内外の商流及び事業拠点のさらなる効率的活用</li><li>在庫拠点集約、共同配送等によるサプライチェーンの効率化</li><li>集中事業分野における品揃え強化</li><li>同一分野における事業の集約化</li></ul> |
| 技術 | <ul style="list-style-type: none"><li>商品開発の加速</li><li>生産技術基盤の強化</li></ul>   |

### 統合新会社が5年後(平成25年)に目指す姿

売上高 5,000億円規模      営業利益 500億円以上

### 新中期経営計画の発表延期について

来期(本年4月1日~来年3月31日)から始まる3か年の新中期経営計画につきましては、本年初めの発表を目標に策定を進めてまいりましたが、昨年12月に三菱化学鹿島事業所の第2エチレンプラントにおいて火災事故が発生したことを受け、一部見直しが必要となりましたため、発表を本年5月に延期することいたしました。

## 株券電子化についてのお知らせ

上場会社の株券の電子化については、平成21年1月からの実施を目標として準備が進められています。この株券電子化が実施されますと、株主の権利は電子的に証券会社等の金融機関の口座で管理されることになり、現在お手元にお持ちの株券は無効となります。

当社株券をお手元(自宅、資金庫等)にお持ちの場合は、次の事項を必ずご確認ください。

### 株券はご本人名義になっていますか?

※株券の裏側をご確認ください。

はい

手続は不要です

ただし、株券電子化後、株式を売買するには、証券会社に口座を開設し、株式の振替手続が必要になります。なお、証券会社を通じて「証券保管振替機構」に預託されると、株券電子化後もスムーズに株式を売却することができます。

いいえ

名義書換が必要です

株主の権利を失う可能性があります。名義書換の手続については、早急に当社株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行 証券代行部(0120-232-711)にお問合せ下さい。

### 株券を証券会社を通じて「証券保管振替機構」にお預けの場合

手続は不要です

株券電子化後も、これまでと同様にスムーズに株式を売却することができます。「証券保管振替機構」についての詳細は、証券会社へお問合せ下さい。

ホームページアドレス

当社は、インターネットにホームページを開設し、最新の企業情報を幅広く提供しております。  
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>